

“大きな家族”の強い絆に期待します

PPKIJ 理事長 H.マルタニ (Prof. Dr. H. Martani Husaini MA)

子どもたちへの教育支援をとおして、手を取りあいましょう

私は、インドネシア大学で経済学部の実務者として教鞭をとる毎日であり、M.SAID 基金の理事長でもあります。M.SAID 基金と C.P.I.は、1989 年に PPKIJ (インドネシアー日本教育文化センター) を設立して、青年育成のため教育支援プログラムを行っています。ここで少し、M.SAID 基金のことに触れたいと思います。

インドネシア教育の父は、インドネシアの初代大統領スカルノ氏の親友ハジャル デワンタラ氏です。インドネシア全土 2000 校以上におよぶタマンシスワ国民学校により独立後の教育の基礎をつくりあげたのです。その三代目理事長故・モハマド サイド氏は、貧困にあっても優秀な学生の援助に熱心なことで有名な方でした。M.SAID 基金は、彼を慕った教え子たちにより

設立され、その精神は

C.P.I.の考えと合っていたので、私たちは協力関係に入ったのです。私たちの共

通の考えは、家庭の困難にもかかわらず成績優秀な青年の視野を広げ、自立の力を高め、両国の良き文化や人生観に触れる機会をつくるということです。15 年間の信頼をもとに、インドネシアの青年と日本の教育里親との間の温かいフォーラムを“クルアルガ=大きな家族”と名づけたこの機関誌が発行されることは、私の大きな喜びです。

私たちの結びつきが大きく発展していくことを願い、皆様のご支援に重ねて感謝申し上げます。



高校を卒業しました。C.P.I.のみなさんに感謝します

わたしは、Euda Iswaryuni 20 歳です。CPI 里子番号は No.3720 です。2003 年に高校を卒業して 11 月に結婚しました。出張食事サービスの仕事をしています。この仕事では、礼儀と正直さが求められます。社長さんがわたしのことを認めてくださり今の仕事につくことができたので、わたしは感謝して働いています。わたしの父は洗濯屋を長いことしています。でも生活が大変なので、母は道端で野菜を売る仕事をしてきました。3m×4mしかない小さな家で育ったわたしにとっていちばんの願いは、両親にもっと楽をさせてあげたいということでした。ですから、高校を出てある程度安定した職業に就きたいと思いました。でも家が貧しいので中学のときにはとても悩みました。

学校をやめて働こうと思ったときもありました。

そのとき CPI 奨学金を中学三年生のときから戴いたので、神様の贈り物だと思い、勉強や奉仕活動に励みました。

日本の里親さんは、神様と一緒に暮らされて、わたしを助けてくださった。わたしは恵まれない時期が長かったけども、C.P.I.のおかげで「自分は恵まれている」と思うようになりました。このことは生涯忘れることはありません。わたしたち家族はもっと幸せになるでしょう。

今日までほんとうにありがとうございました。わたしのような子どもをひとりでも多く育てていけるよう、わたしもこれから頑張ります。



学校から感謝をこめて！！

Bogor 州 MTs. Al-Jihad 中学校校長

===すべての皆さまに神様の祝福がありますように===

私たちの学校は MTs. Al-Jihad Sukmajaya という名前で、ジャワ島の Depok という町にあります。私たちの学校はイスラム教の中学校でインドネシア共和国の宗教庁の管轄となっており、1985年に設立されました。私たちの学校は PPKIJ の奨学金を受けています。これまでに奨学金を受けた生徒は6名です。この奨学金が、特にこの奨学金を受けている生徒達に、どのように好ましい影響を与えているかを、ご紹介したいと思います。

(MTs というのはアラビア語の Madrasah Tsanawiyah のイニシャルです)



スクマジャヤ中学校の元気な子どもたち

☆☆☆ 後輩の面倒をみる「よきリーダー」に成長 ☆☆☆

インドネシアでは、ほとんどの子供たちが勉強することにとても熱心です。しかし、熱意があっても、勉強する環境は非常に厳しいものがあります。奨学金によって、そのような彼らの熱意に応えるための最小限のものを用意できることは大切です。

奨学生は奨学金を学費や本、文房具に充てています。ところで、奨学金は奨学生本人のための学業のための投資となるだけではありません。奨学金を受けた先輩たち（大学生となった里子たち）が高校生、中学生の学業、技術、広い視野、自尊心を高めるため

にさまざまな相談に乗ってくれるようになっていきます。なぜそのように「よきリーダー」となってきたのか、ということをお話いたします。

PPKIJ は英語、日本語、コンピューターやリーダーシップを磨くための課程を用意してくれています。卒業生のためにも工業、農業、畜産技術を高めるためのトレーニングプログラムを用意しております。このようなことはすべて、奨学金の趣旨に賛同する専門家がボランティアで指導しています。奨学金卒業者たちは、彼らを見習っているわけです。

☆☆☆ 人格形成に大きな効果のある教育里子制度 ☆☆☆

わたしたちは、奨学生たちが優れた人格、自尊心のある高い技術をもった人格をもつことを期待しています。それに加えて PPKIJ は卒業生特に大学生の組織化を行っています。わたしたちは、彼ら同士が情報を交換しあって、自分たちの得た恩恵をさらに高めて最終的な成功に導かれることを願っています。彼らに渡される月額 40,000 ルピアと言う奨学金だけで言えば、勉学に必要な金額を考えると十分とは言えません。しかし、それを上手に使う素晴らしい結果を出すことに価値があります。さらに地域のリーダーたちが与えてくれる助言や活動は、彼らの能力を高めるためにとても助けとなります。また、

訪問してくださる日本の C.P.I.里親さんとの交流会は彼らの見識を広め、もっと一生懸命勉強しようという意欲を高める助けとなります。

この手紙だけではとても足りませんが、PPKIJ の皆さま、CPI 委員会の方々、さらに日本の里親の方々が一生涯懸命この奨学制度のために働き、社会の恵まれない立場の人々に心を配っていただいていることに、深く深く感謝を捧げたいと思います。我々の国がまだまだ苦しい状況であることを心に留めていただいて、このプログラムを継続していただけることを願い、重ねて感謝をもうしあげます。

皆さまに神様の恵みがありますように

私は国立大学で獣医学を学んでいます

不可能を可能にしてくれた CPI 教育支援

ユリア・ヌル・ラマワッティ(マラン)

1997 年 TUMPANG の“SMU NEGERI 1”国立高校の 2 年生になった時、わたしは C.P.I.の里子となり、最初の奨学金を受け取りました。私の学校の教師でもあるマラン地方のエリア・リーダーから奨学金の申し込み書を頂き、それを通じて奨学生になることが出来ました。PPKIJ で高校生から始める奨学生はめずらしいので、先生から日本の皆様に話すように言われたので、この手紙を書きます。

わたしの家族的は、学費を十分に払えるような家庭ではなかったのです。それが学校に通え良い成績を取れたのは奨学金のおかげです。神様と暮らされた里親さんに感謝したいと思います。



わたしは C.P.I.奨学金のおかげで教科書や、筆記用具、その他学業に必要な物を両親に頼むことなく購入出来るようになりました。

苦しかった両親の生活を助けたかった

母は中学卒業の学歴しかなく、政府の下で働いていてもその地位は低かったのです。父も小さな仕立て屋を営んでいますが、その収入は固定的なものではないので、実際、わたしや妹は、学校で勉強を続けるために、ほんとうに大変でした。わたしは、高校二年生になるとき将来のことを考えました。両親が大学の学費を負担するのは非常に難しいだろうと判断しましたから、大学へ進学して勉強を続けることを殆どあきらめました。そして、妹をなんとか助けたいと思い、資金を稼ぐことの出来る職業訓練コースの道に進もうと思いました。ちょうどその時、PPKIJ が国立の大学で勉強をしたいと考えている生徒に奨学金を授与



(道端で小売をしながら子育てする母親)

する機会を設けていることを知りました。そして、驚くことに、運良く私はその奨学金を受け取ることの出来る生徒に選ばれました。C.P.I.から奨学金を頂いたことで、私の両親もわたしが入学費を払えるように一生懸命仕事をしてくれたので、私は念願の大学入学を遂げることができました。大学へはいる試験は、高校の一年から三年までの成績を通した成績がとても重要です。苦しくても勉強を投げ出さないでよかったと思いました。わたしは念願の Malang Brawijaya 大学の獣医学と栄養と動物の食物学学部に入学することになったのです。

わたしは来年大学を卒業する予定です。大学まで続けてくださった C.P.I.の奨学金と、両親が出してくれた資金のおかげです。これから獣医として両親を助けていけると思うと、とてもうれしいのです。

日本の里親さんへ

私は、神奈川の里親さんに心よりお礼を申し上げたいと思います。残念なことに、今まで自分が送った手紙に返信はされることがなかったため、彼女とコミュニケーションをする機会を持つことができませんでした。でも、だからといって私の貴女への深い感謝と敬意を減らしたということではありません。現在わたしは、7 学期目(一学期は 6 ヶ月)にいます。PPKIJ 地域リーダーが言うには、私は 10 学期まで奨学金を受け取ることが出来るそうです。卒業時の平均の成績がよければ、その後、「卒業里子による指導者チーム」にはいって、PPKIJ の地域活動に積極的に加わることが可能になるそうです。わたしはとても充実してはりきっています。

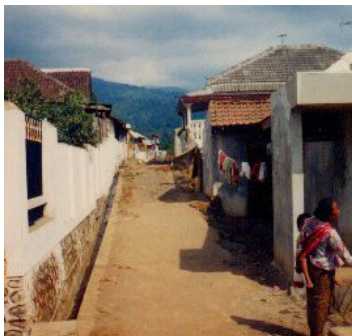
皆様の親切とやさしさとともにありました神様に、良き報いを捧げられますように生きたいと思います。

皆様がずっと幸せでありますようにお祈り致します。

エリア紹介



チアンジュール



チアンジュールは、まったくのイスラムの町で、お酒も売っていません。いわゆる遊興場所はいついありません。人々は、果物狩やピクニックに行き歌を唄って遊びます。街路は掃き清められていて、すごく気持ちいところ。農業、漁業の盛んな豊かな町です。

食べ物のはなしから紹介をはじめます。この地域は、おいしい米“チアンジュール米”の産地として有名です。日本のお米にも負けないかもしれません。この米で作った日本の味噌のような「タチョ」という食べ物も大変おいしいです。

また、海からは魚の干物も特産として作られます。また、この地方独特の果物がたっぴりはいったジュースも、好評です。

チアンジュールはジャカルタから南東へ 100km 車で二時間 30 分ほど、バンドンから西に 60km 同じく一時間 30 分ほどの地点にあり、西ジャワ州の要所になっています。地形的には二つに分かれて、北はチアンジュールの三分の一を占める高原地帯、南はインド洋まで低地が広がっています。

火山もあります。インドネシアで一番高いパングランゴ山（3019m）のあるグドゥパンゴランゴ国立公園では火口見物ができます。チボダス公園では、樹齢 100 年以上のサボテンが紅茶畑に美しく点在し、早朝からティーウォークを楽しめます。

スカイスportsが楽しめるブンチャック高原では貸し別荘をとて安く借りることができるので、土曜日には車が列をなします。

南に行きますと、子どもたちが“お湯あそび”を喜ぶスカシルナ温泉やチムンガ洞窟があります。

また、アブラビーチ、ジャンティビーチ、バトゥク クムブンビーチ、チオルンビーチなど多くの美しい浜辺があります。

歴史的な事に興味があれば、グヌンパダンがお勧め。東南アジアの中で最大の歴史的遺跡とも言われて、さまざまな大きさや形をした石材が自然に積重なり独特なすばらしい光景です。

（ 沢山の人たちが出て、共同して稲刈りをします！ ）



CPI-PPKIJ 職業訓練 & 開発センター

CPI-PPKIJ 職業訓練 & 開発センター

この施設は C. P. I. のおかげで日本政府からの草の根無償資金約 1600 万円の補助を受けて 2000 年に完成しました。土地は C. P. I. と PPKIJ の有志の寄付で取得しました。研修生 50 名の宿泊棟と教師宿泊 2 室および食堂と会議室がある寄宿舍、教室が 4 室、図書室を備えています。

教室は 4 クラスの講義に、またはすべてをひと部屋にして実習に使うことができます。

最近チアンジュール郡のコミュニティカレッジの運営を委託されて、地域振興のニーズに沿った実務教育を行っています。『農漁業と観光開発』をテーマにしましたので、日本での研修も望まれています。手助けをいただけるとありがたいのですが…。

課題は研修卒業生の起業資金です。以前にパン製造の技術研修をしたあと、実際に村々で起業できた研修者は 15%ほどでした。小規模起業融資（マイクロファイナンス）との提携が必要です。手芸人形など女性の簡単な起業の場合は、布材料の提供とマーケティングを手伝って戴ければ、月 25 万ルピアほどの収入を見込めるようにしてあげたいと、C. P. I. 会長さんと話し合っています。



スマランの在学生・卒業生たちのボランティア活動

皆で学習し、活動するのは楽しい

ムスリム（イスラーム信者）が断食（ラマダン）の月にピサントレン・キラット・ラマダン（Pesantren Kilat Ramadhan）と呼ばれる学習活動を紹介します。外部から Kyai と呼ばれるイスラム教の先生を招き、コーランを詠みあって学習します。独特のメロディで、皆様には歌のように聞こえることでしょう。詠みあいが終わる頃には日も沈みますから、ご馳走を食べゲームをし、健康のために運動をします。なかなか楽しいものです。私たちはこれまでにこの活動を 4 回行ってきました。この活動は自分たちの宗教に関する知識を深め、経験を交流し、お互いを理解する気持ちを深める機会をつくるなど、多くの良い点を持っています。



このような里子活動は、PPKIJ を親しみやすいものとし、地域のリーダー Daryono さんと身近に接することにもなります。

“PPKIJ スマラン” の特色

ところで、今から 10 年ほど前までの PPKIJ の地域センターは、奨学金を里子たちに渡して勉強をきちんとしているかを管理するだけでした。しかし、1993 年までの 3 年間、PPKIJ のすべての地域で日本との青年ボランティア交流をしたことで変化がきました。

「視野を広げる活動への参加で、自立精神が向上する」ことを実感した地域リーダーたちは、里子たちに様々なプログラムの計画から実施する段階まで、積極的に参加するよう呼びかけました。スマランでは、毎年子どもたちに学習活動や奉仕プログラムを計画させています。その結果、在學生は学校の中でもリーダーシップが増し、卒業後も社会活動をする人に成長しています。また、スマランだけの特色で

すが、在學生や卒業生に相談にのれるよう、様々な分野の一流の専門家がボランティアで集まっています。そしてとうとう PPKIJ の専門家集団は、地方政府のプロジェクトでも頼られる存在となって、卒業里子たちとともにスマラン民衆の生活向上のための仕事にとりかかっています。期待してください。

オランダ統治時代を偲ばせる庶民の町



「Lawang Sewu（ジャワ語で千の扉の意味）」オランダ統治時代（1913 年）に建設。

スマランは中部ジャワ州の州都で、ジャカルタ、スラバヤ、メダン、バンドンに

次ぐインドネシアの地域です。

都市部は商業立地と

しての性格が強く、人口は約 120 万人です。

16 世紀半ばからの古い町で、オランダの植民地時代には交易港の一つとして栄えていました。小さな港町ですが地の利がよいため、大規模な小麦精製工場が隣接しており、輸出港としての発展性が期待されています。

オランダ統治時代の情緒を楽しみくつろぐには最高と観光客に人気があり、とくに安い海鮮屋台は人気が高く、いつもいっぱいです。

庶民の生活は、勤勉性と堅実な土地柄もあって明るく気もち豊かでインドネシアの将来可能性の一端をみることができると思います。

開発独裁と呼ばれていた過去の政治を精算

した、民衆の手による生活向上が望まれています。

いまいちばん困ることは、毎年の水害です。低地の旧市街は毎年水かさ 3m ほどにもなります。子どもたちはタイヤチューブの浮き輪で水遊びに興じ「家の中で魚がとれる」と無邪気にはしゃいでいますが、地方政府は解決に頭を痛めており、PPKIJ の専門家とともにプロジェクト形成を図っています。卒業里子たちも 12 名が有給で参加することになっています。C.P.I. の皆さんが育ててくださった子どもたちは、ますます活躍しています。ありがとうございました。



港に隣接した小麦精製工場



安くおいしい海鮮屋台

ジョグジャカルタの世界七不思議

ジョグジャカルタはインドネシアの特別な州の一つです。ジョグジャカルタは観光の町、学生町の町、教育の町、文化の町、芸術の町などと言われます。ジョグジャカルタの一番の特色はスリ・スルタン・ハメクブオノ10世という国王がいることです。彼はジョグジャカルタの知事でもあり、ジョグジャカルタを統治しています。そして、中部ジャワ独特の里子制度の長でもあります。この制度から発して、インドネシアの上級公務員は皆、数人の里子の面倒をみています。驚かれますでしょうか？

C.P.I.の小西会長さんが国王と会われたとき、「C.P.I.教育里親制度」を大変よいプログラムといわれて、とても理解ある応援をしてくださっています。



さて、ジョグジャカルタには世界七不思議の一つである大きな古代遺跡ボロブドゥール寺院(写真)があります。その他にもプランバナナ寺院、ボコ寺院、カラサン寺院などがあります。

コタゲデと言う特別な町にはたくさんの銀工場があります。海外からの旅行者の間では銀製品は大変人気です。コタゲデには古い建物が数多く残っており、今でもそこで暮らす人がたくさんいます。地元の人々も、子どもに自分たちの文化をきちんと理解させるために、また子供たちの知識をより豊かにするために、彼らをこの地の文化遺産や歴史的建築物へ連れて行きます。マリオボーロ・ストリートと呼ばれる通りも人々に人気があり、お土産、衣服など欲しいものは何でも買うことができます。

もう一つの特徴は、大学がたくさんあることです。ですからジョグジャカルタには学生が沢山います。全国から集まってきているのです。ジョグジャカルタは楽しい町なので、インドネシアを旅行する時は是非とも訪れて欲しいです。私たちは皆さんがこの町での滞在を楽しめるようにします。

ジョグジャカルタの PPKIJ 指導者 スティクノさん(Ki Drs. Sutikno) からのメッセージを贈ります。



厳しさと優しさで若者を指導するスティクノ先生

「子どもたちを救う仕事は、簡単ではありませんが、やり遂げたいと思います。なぜなら困難に立ち向かうことは立派な行為ですから」。

CPI と PPKIJ は、ジョグジャカルタで偉大な関係を築いてきました。インドネシアの子どもたちや日本の里親さんたちには様々な困難が次々とでてきます。しかし、私たちは常にお互いを理解し、最善の解決策を見つけようとしてきました。CPI の方たちに感謝します。日本もインドネシアも景気が悪く、それは日本の皆様の状況に反映してしまっていますが、あなたたちはこの事を成し遂げるための勇気と和合を与え続けてくださっています。

重ねて申し上げます。テレマカシ（ありがとうございます）。

35円(2,500ルピア)の悲劇! ヘルヤント君は…

・・・2003年夏 サンディン村の出来事・・・

編集部注:「貧しい」とは
どういうことか、新聞に
載った事件を通してみ
なさまにひとつの例を
提供いたします。

子供というのは、何か落胆させられるようなことに直面すると、破滅的なことを決行したりします。この実話はバンドンに近いガルートのサンディン村のサンディン小学校に通う6年生のヘルヤント君(12歳)に起こったことです。この少年は普段はとても優しい、母親を大事にする少年でした。

それは学校の休み時間の午前9時に始まりました。

ヘルヤントは先生に「工作代を払っていないのはお前だけだ」と言われたのです。クラスで恥をかいた彼は、母親に工作代を払ってくれるように頼みました。そのとき母親のカミさん(39歳)にはまったくお金がありませんでした。「むりなのよ、すこし待ってね」。ヘルヤントはあきらめずに、泣いて頼みました。母親はヘルヤントの激しい態度にとても驚きました。ヘルヤントはいつも良い子でしたし、両親の経済的状況をよく理解していま

ある日、その少年は工作代の2,500ルピア(約35円)を払うことができずに、学校でとても恥ずかしい思いをしました。そして悲劇的な行動に走ってしまいました。新聞で報道され、2度とこのようなことがおきないように学校でも話し合われた事件です。

した。日々の生活の中でも、隣人の手伝いをして自分のお小遣いを稼いでいたほどです。母親が知る限り、ヘルヤントがお金のことで強く言い張ることなどいまだかつてなかったからです。しかし、彼女はそれ以上なんと答えることができたでしょう。深い悲しみの中で、黙っているしかありませんでした。

母親は台所へ行って料理を始めました。

それでも、ヤント(ヘルヤントのニックネーム)はまだ泣いていました。母親は料理をしながらこの出来事についてずっと考え、愛する息子の態度の変化を心から心配していました。そのときヘルヤントは彼の不運な人生を終わらせようとして、使っていな

い電話線を家の2mの垂木にくくりつけました。ガルツ市の国道沿いサンディン村での、2003年8月の金曜日、午前9時30分頃のことでした。



台所に料理をしに行った十数分後に、母親は何か重たいものが落ちる音を聞きました。彼女が駆けつけてみると、愛する息子ヤントが学校の制服を身につけたままで電話線で首をくくっているのを見て、母親はショックで気も狂わんばかりになりました。

母親は、すぐさま近所の人たちの助けを借りようと必死に叫びました。近所の人は直ぐに助けにきました。その中のうちのひとり、ハリスさん(39歳)は電話線を切り、ガルツ市にあるスラメット病院へ少年を連れて行き緊急処置を受けさせました。医者のお話によると、酸素不足によりヘルヤント君は昏睡状態になっていたということでした。これ以上の回復を望めなかったため、もっと良い治療を受けられるバンドンの病院

にヘルヤント君を移すことを決めました。そしてこの悲劇はテレビや新聞で全国民の知るところとなりました。教育文化省も特別に配慮することとなり、彼の家族に寄付がなされました。父親のスルヤナさん(42歳)は市場の肉体労働者として働いていますが、どうしようもなかったのです。

この事件は「**貧困を意識させることの悪**」について、**大きな議論を呼んだ**のです。

いつも貧困と不安に囲まれている子どもたちにとって、突然“気持ち”の糸が切れたとき、悲しい現実が襲ってきます。悲しいことですがこの事件は、その厳しさを伝えています。(クルアルガ編集委員会、補足)

PPKIJ ニュース

インドネシアは「海の国」と呼ばれており、約18,000 余りの島々と周囲の海を含んだ共和国です。主な島はスマトラ島、ジャワ島、カリマンタン島（西の一部はマレーシア領）、イリヤンジャヤ島（東半分はパプア ニューギニア領）、おなじみのバリ島もそのひとつでジャワ島の東にあります。

PPKIJは、この広い国の政治・経済の中心であるジャワ島の子どもたちの教育支援を行っています。以前はスマトラ島にも地域センターがありましたが、管理が難しいので閉鎖しました。

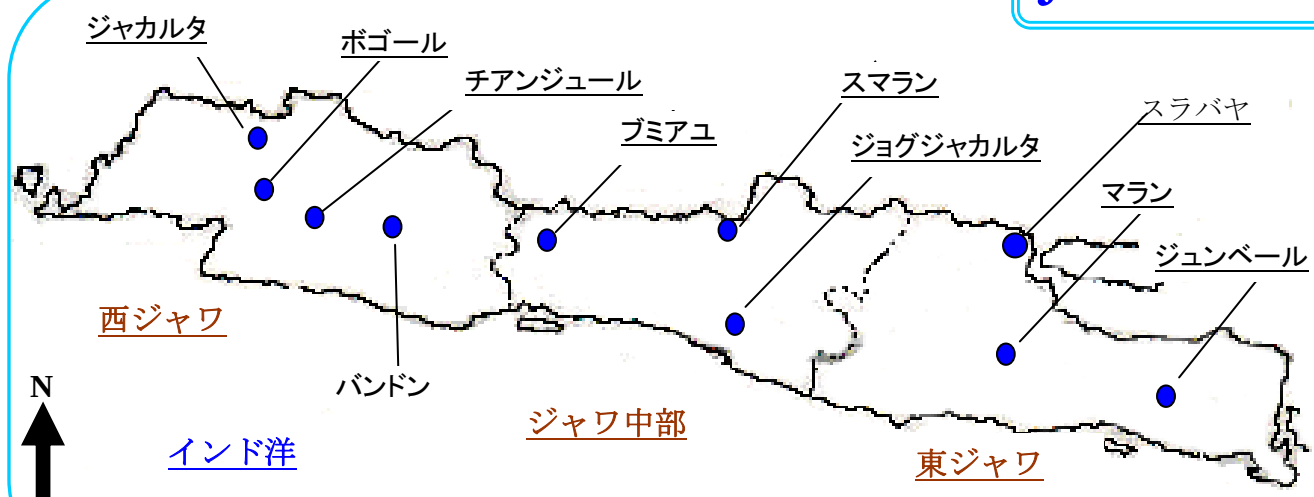
子どもたちの支援はお金だけではありません。様々なプログラムを行い、貧困な子どもたちの

相談に乗るために、PPKIJはC. P. I. Japanとともに地域センターを設けています。多くの教師や企業経営者、卒業生たちがボランティアで面倒をみています。

下の図はPPKIJのローカルセンターの場所を示しています。



JAVA MAP



インドネシアの国政の中心はジャカルタです。ジャワ島は横に細長い島です。西端から東端まで約1,000kmあります。ちょうど東京から広島くらいの距離です。我々は会合を開くときは、ジャカルタに集まります。一番東のジュンベールからでは、24時間かかります。スマランからは電車で6時間、バンドンから車で4時間といったところです。夜行で移動して午後会議を行い、その日の夜行で帰ります。日本の方ですと強行軍でしょうね。インドネシアは300もの言語をもった多民族の共和国ですから、文化がそれぞれ違います。

いまは小学校一年生で標準インドネシア語を学習しますから、言葉の不便さはありませんが、それぞれの地域では民族の言葉のほうが親しみがわきます。

PPKIJの地域センターでも、地域性に合わせた活動方針をとっています。子どもたちの相談に乗るにもそのほうがいいわけです。

これからクルアルガ2号、3号…と回を追って、ご紹介していきたいと思います。ではみなさま、テレマカシバニヤ（たいへんありがとうございました）